

一人一人が高まりを感じられる算数指導

～実態に応じた3つのスペース～

精華小学校 保母 征之

1 授業改善の視点

- ・児童の学習への主体性を高める指導の在り方
- ・個の実態に応じた学ぶ場の設定の在り方

2 具体的な実践

(1) 3つのコーナーを設けた意図

算数の授業をしていて、指導者側（私）が悩むことが大きく2つある。1つ目は「個人差が大きい」ということである。はやい段階で考えづくりができてしまう児童が時間をもてあます一方で、考えづくりに時間がかかる児童もいる。後者の児童には時間をじっくり確保し考えさせたい願いはあるけれども単位時間内でおさえたい内容もある。時間差のジレンマである。2つ目は、児童が「教えられる」という受動的な授業になりやすく、主体性が乏しくなってしまうことである。この2つの悩みを解決するために、個人追究時に①考えづくりコーナー②相談コーナー③高め合いコーナーの3つの場を設けた。

(2) 1時間の学び方指導

児童が見通しをもち、自ら学習に向かっていけるようにするために単元の導入において、学習計画を立てる。その時間にこれから学習する算数学習の1時間の流れを提示する。第1時間目に流れとそれぞれのコーナーでの学習方法を確認する。①②③までは係の児童を決めて、自分たちで進められるようにした。確認問題においても、個人追究と同じ形をとり、個に応じた指導・支援をできるように工夫した。

1時間の流れ

- ①問題の確認
- ②課題づくり
- ③見通し
- ④個人追究
 - 考えづくりコーナー
 - 相談コーナー
 - 高め合いコーナー
- ⑤全体追究
- ⑦まとめ
- ⑧確認問題
 - 考えづくりコーナー
 - 相談コーナー
 - 高め合いコーナー



(3) それぞれのコーナーのねらい

3つのコーナーのねらいを以下のように設定した。

コーナー名	ねらい
考えづくりコーナー	課題に対しての自分の考えをもち、自力追究で力をつける場
相談コーナー	課題に対しての先生や仲間と助言やヒントカードなどを使って自分の考えをつくることのできる場
高め合いコーナー	自分が考えたことと仲間の考えを比べて、同じところ、ちがうところを明確にもち、考えを広げたり確かめたりすることのできる場

(4) 児童の学習活動の流れ

前時までの学習と比較などして課題づくりをした後に個人追究に入る。児童は、自力追究するか、相談しながらやるかを決める。相談したい児童は教室の窓際の席に移動し（少人数指導のために空いている）そこで仲間や教師の助言を受けながら考えをつくっていく。考えづくりコーナーや相談コーナーで自分の考えをつくることのできた児童は教室の後ろに行き、2人のペアをつくって考えを交流する。7分の考えづくりの時間の中で、5分経過した時点で交流をすませた児童4～6名ほどが、考えを黒板にかく。全体交流では、黒板に書いた児童が発表し、理解できたかを1回ごとに児童に質問し、全員が理解できるまで児童に説明する。



3 実践を振り返って考えられること

学び方指導は、児童が学習のやり方が分かり、見通しをもって学習に取り組む姿につながった。授業の中で自分の意思で動ける場があることで、自分たち中心で授業が進められているという実感があり、意欲的に取り組む児童の姿につながった。また、考えづくりがはやい児童も自分の活動を言語化する時間が増え考えを広げる姿につながり、それが学習意欲を持続させる結果となった。支援を必要としている児童に対しても効果的に支援することができた。一方でいつも同じ児童にならないように配慮することが必要である。